

## 乾燥濾紙血液 TSH 測定によるクレチン症 スクリーニングの結果

東邦大学医学部 第一内科

入 江 実  
榎 本 仁 志  
伊 東 裕 美 子  
黒 田 裕 子

乾燥濾紙血液 TSH 測定によるクレチン症スクリーニングは表 1 に示す如く、1979年1月以前には 10 mm disc 1 枚を用いて 103,367 検体を測定し、11 例の患児を発見し、1979年2月以後 3 mm disc 2 枚を用いる方法に変更し、52,656 検体を測定し、6 例の患児を発見した。3 mm disc 法での再検率は 23.4%、再採血要求は 0.18% であった。クレチン症のスクリーニングが行政機関で行われるようになってから検査を依頼された静岡県・長野県のを表 1 に表した。静岡県の 12,488 検体 (1979年11月から1980年2月20日まで) を検査し、再検 339 例 (2.71%)、再採血 35 例 (0.28%)、精査されたもの 3 例で、2 例は明らかな甲状腺機能低下症で、1 例は一過性甲状腺機能低下症あるいは高 TSH 血症と考えられる症例で経過が観察されている。長野県の 2,940 検体 (1980年1月~2月20日) は数も少なく、まだ患児は見出されていない。なお、Cut off Point については従来、第一回の測定で disc TSH 値が 3% 以上である場合に残りの検体より再検を行い、3% 以上で  $20 \mu\text{u/ml} < \text{disc TSH 値} < 50 \mu\text{u/ml}$  の場合には再採血を依頼し、disc TSH 値  $50 \mu\text{u/ml}$  以上の場合に精査を依頼する方法であったが、行政機関との合議で図に示す如く、第 1 回で disc TSH 値が  $50 \mu\text{u/ml}$  以上のものは直ぐに再採血を依頼し、その間に再検し、disc TSH 値が  $50 \mu\text{u/ml}$  以上の場合には再採血検体を待たずに精査を依頼するようにして、甲状腺機能低下の程度が著しいと考えられる例についてはできるだけ早く精査を行い診断を確定し早期に治療を開始されるようにした。

10 mm disc method

No. of screening 103,367

No. of patients 11

3 mm discs method

No. of screening 52,656

No. of retest 1,230 (2.34%)

No. of request blood spots 94 (0.18%)

Patients 6

	Shizuoka Nov. 1979-	Nagano Jan. 1980-
No. of screening	12,488	2,940
Retest	339 (2.71%)	84 (2.86%)
Request	35 (0.28%)	3 (0.10%)
Consultation	3	0
Patients	2	0
Transient or hyper TSH nemia	1 } 3	

表1 クレチン症スクリーニングの結果

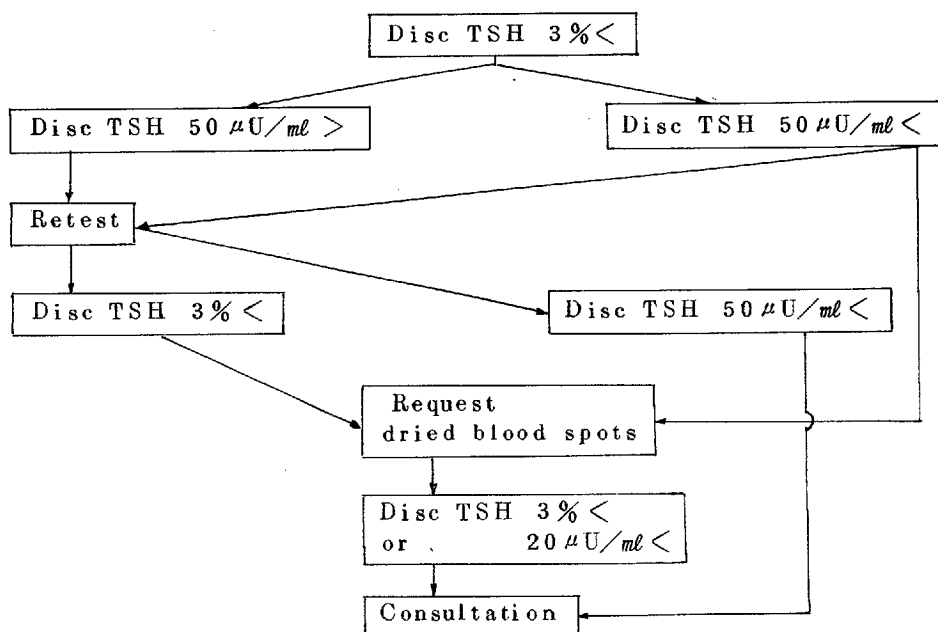
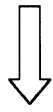
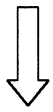


図1 クレチン症スクリーニングの方法



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



乾燥濾紙血液 TSH 測定によるクレチン症スクリーニングは表 1 に示す如く、1979 年 1 月以前には 10 mm disc1 枚を用いて 103,367 検体を測定し、11 例の患児を発見し、1979 年 2 月以後 3 mm disc2 枚を用いる方法に変更し、52,656 検体を測定し、6 例の患児を発見した。3 mm disc 法での再検率は 2.34%、再採血要求は 0.18%であった。